

# 【研究の概要】

## ○課題設定の理由

児童の実態調査や日々の学校での学習や生活の様子から、「自分の考えを表現することに、苦手意識がある。」「学習に対し受け身なことが多く、課題意識をもてないことがある。」「正しいことでも素直に進んで行動しようとしなない。」「できることは多いのに自己肯定感が低い。」といった課題があることを多くの教師が感じ、「自分の考えを素直に表現し、よりよいものを追求したりできる子になって欲しい。」「生活の中で生かせる国語力を育てたい。」という願いがあがってきた。また、令和2年度から行われる新学習指導要領施行実施に向けて、発達段階を踏まえた「主体的、対話的で深い学び」を実現するための指導の在り方の追究や、問題解決的な学習を取り入れる等の指導方法の工夫を図ることが必要不可欠であり、それを学ぶ機会をもちたいと考えた。

こうした現状をふまえ、研究主題を「主体的に伝え合い学び合う児童の育成を目指して」とし、～国語科学習の充実と指導法の工夫・改善～を副題とした。学習する内容に対し、一人ひとりの児童が、自分自身の問題として捉え向き合い、主体的に思いや考えを表現し対話したくなるような授業展開を工夫することを柱とし、研究を深化させ、目指す児童像「自分の思いや考えをもち、それを伝え合いながら、自分の考えを豊かにすることができる子」の実現を図りたい。

## ○研究仮説

〈仮説1〉

学習過程や学習活動を工夫することで、児童に思いや考えをもたせ、自分の言葉で表現することができれば、伝え合う活動が充実するであろう。

〈仮説2〉

発問の仕方や教師の働きかけ・関わり方の工夫することで、児童どうしの学び合いを充実させれば、児童の考えを広げたり深めたりして、考えを豊かにすることができるであろう。

## ○研究組織



